

第四十七回 川と池を掘る(四)

次は池だ。これはどうすれば良いか結構悩んだ。一番心配したのは池がボウフラの楽園になってしまわないかということだ。ボウフラ対策にはメダカを飼うと良いと言われるが、適当に掘った池にメダカを放つと動物虐待にならないか。そもそも越冬できるような池にするにはどれだけ深くしなければならぬことか。いろいろ考えた末に、流れが常にある池をつくることにした。つまりそこだけ川幅を広く大きく曲がった川にして、その間をつなぐ水路もつくるのだ。そうすれば見かけは楕円形の池に中の島がある形になる。メインの広い川には石で堰をつくり池の水深が川より深くなるようにした。つなぐ方のサブの川にも堰をつくりある高さまで水が溜まったならそちらにも流れるようにした。増水時には調整池の役割も果たすのではないかと。

池のところは川よりも深く掘ることにしたが、そうすると急に石に当たる頻度が増して池のかたちができるまで二日かかってしまった。それでも川との境の土を切り崩すとどんどん水が流れ込み期待通りの池らしい姿になった。水面に目をやると池のように溜まっているけれど、流れがあることが確認できた。

川と池が完成してから数日たったら急に水量が減って来た。川下から川上に点検して歩くと、どうも側溝に設けた堰があまりうまくいっていないようで、多くの水がこれまでどおり側溝の方に流れているようだった。もし、側溝の水が増水した場合にそれが全て川に流れると氾濫して敷地が水浸しになってしまうかもしれないので、堰は側溝と川と両方に水が流れるようにしてあったのだが、その塩梅が難しい。それでも川が干上がってはもともとこもないので板を石で支えただけの堰を粘土も加えて水が漏れにくいようにしてみた。それと、そもそも側溝の水は常に水量が多いわけではなく落ち葉もたまり放題にしておくとしょこしょことした流れになってしまうのだ。今までは、それでも側溝が落ち葉で完全に埋まってしまわない限り問題はなかったのだが、これからは川のために落ち葉掃除が欠かせなくなってしまう。水を自分たちの役に立てようと身近なところに引き込むとそれだけ丁寧に面倒を見なければならぬということか。

そして、心配していた大雨もほどなくやってきた。川は掘った土を盛り上げた堤防のおかげで問題は無かったが、池が溢れてしまい中之島も水没してしまった。とは言ってもまわりに大きな影響を与えるほどではなくかえって植生の変化につながるかもしれないと思うことにした。ただ、水が引くまでの間、池の周りを歩くことができないのが不便だ。これまた家をつくった時の端材を見つくるって木道をつくることにした。木道と言っても板を引くだけなのだが、さすがに土に接する部分を少なくするために角材でかさ上げすることにした。さらにその角材を外かまどの火で焦がして腐りにくくするぐらいのことはしてみた。ついでに中之島に渡る小さな橋もつくってみた。この木道があれば池の周りが少々水没しても様子を見回ることができるし、水没していいときでもそれなりの景色をつくってくれた。

